

第2学年A組 国語科学習指導案

指導者 今川千春

1 単元名 「最後の晩餐」の魅力

～筆者の論証の仕方に納得するか～

2 単元の目標

- 「最後の晩餐」を「カッコいい」とする筆者の考えに触れ、評論文を読む楽しさを味わい、ものの見方や考え方を広げようとする。 【関心・意欲・態度】
- 筆者の「最後の晩餐」のとらえ方や評価のしかたについて既習教材と比べ、似ている点や異なる点を明らかにしながら自分の考えをまとめることができる。 【読むこと】(1)ウ
- 語句の効果的な用い方について理解を深めることができる。 【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】(1)イ(イ)

3 生徒と単元

(1) 生徒について

自分の考えを積極的に発表しようという意欲をもっている生徒が多い。また、多様な考え方をもち生徒も多く、それを根拠を挙げながら説明しようとする力も徐々に身に付いてきている。生徒たちは1年次の「わかりやすく説明しよう～鑑賞文を書く～」の単元で、「明暗」「構図」「音」等の観点をもとに作品を分析し、それを根拠に鑑賞文を書く学習を行っている。しかし、互いの文章を読み、他の人の分析と自分のものを比較し、どこが同じか、なぜ違うのかというところまでは考えを深めることができなかつた。

今年度行ったESDに関する生徒アンケートでは、全体的に他学年に比べて「よくできる」と答えた割合が低かった。特に、比較・検討に関する項目についての結果は次の通りであり、意識の低さが感じられる。

質問項目	生徒
相手の考えをきちんと受け止めた上で、自分の意見と比較し、共通点や相違点を考えながら聞く。	40%
自分の考えを吟味し、再構築する。	43%
課題に対して、他の人の意見を聞いたり、話し合い活動をしたりすることにより、最初よりよい考えを生み出す。	50%

これは国語の授業でも言えることで、他の意見を聞き、それに対してただ「同じ」「違う」という意見だけでなく、「どこが同じなのか」「なぜ違うのか」等、他の考えを吟味するところまでには至らない生徒が多い。そこで国語科では、小グループの役割分担を決めて意見交換活動を行った上で、多くの生徒の多様な考えを吟味し、学びを深める工夫をしてきた。今年度は特に、自他の考えを「比較」し、さらに「検討」することを生徒に意識させながら授業を行っている。

(2) 単元について

本単元は、主として学習指導要領国語科第2学年の(2)内容「読むこと」の指導事項ウを受けて設定したものである。本単元では対象について視点を決めて分析し、価値を判断する評論文を読む学習をする。本単元で身に付けたい力を、「筆者の絵画の見方や評価に納得できるか自分の考えをもつこと」とする。その力を身に付けさせるための言語活動を「主教材の論の進め方を補助教材と比べ、筆者の意見の述べ方(どのような視点でどのように評価しているか)についてどう考えるか(どこに納得するか)意見交換会をする」とする。生徒の読みを深める補助教材として、小学校6年生で既に学習した『鳥獣戯画』を読む』を準備する。

この二つの教材は、とらえている対象は違うが、筆者独自の視点で対象をとらえ評価している点、結論の「カッコいい」「人類の宝」という評価の言葉、語りかけるような表現のしかたなど比較できる点が多くある。述べ方の相違点や共通点を探ることにより、主教材「君は『最後の晩餐』を知っているか」の筆者の絵画に対する見方や考え方により迫りやすくなるものと考えられる。

(3)「大曲南中ESDの視点で身に付けたい力」を育成するための指導・手立てについて

①コミュニケーションを行う力

意見の発表だけで終わらない、双方向の意見交換をするために、役割分担を明確にした小グループでの活動を効果的に取り入れ、自分の考えを根拠を挙げて相手に伝える活動を行う。「司会」「記録」「発表」の係に加え「反応」の係を入れ、小グループ内での意見の交換が積極的に行われ、話し合いが深まるようにさせたい。小グループでの役割を決めることにより、単に発表するだけでなく、意見を聞きまとめて記録する、相手の発言に対して意思表示をするなど、話し手や聞き手を意識したやりとりが期待できる。さらに、小グループの意見を全体の場で述べ、他のグループで出た考えと比較・検討しながら聞き、それに対し自分との共通点や相違点を挙げて述べることにより、説得力のある意見交換ができるのではないかと考える。

②批判的に考える力

この単元では主教材「君は『最後の晩餐』を知っているか」を、補助教材『鳥獣戯画』を読む」と比べながら読み、筆者がどのような観点で根拠を挙げて評価しているか、自分の意見に説得力をもたせるためにどのような観点を根拠として評価しているのかを読み取らせたい。どのような視点で何をどのように評価しているかという筆者の意見の述べ方を比較・検討することにより、筆者の論の進め方を批判的に読めるのではないかと。単に、論の進め方に共感する、納得するという考えだけでなく、納得できない場合は「どこまで納得できて、どこから納得できないか」等、文中の表現を挙げながらその理由を述べる活動を大切にしたい。また、小グループの学習活動では、聴き方のポイントを意識して他の人の発表を聞き、他の人の考えと自分の考えの共通点や相違点を明確にすることにより、自分の考えを深めさせたい。

③多面的・総合的に考える力

本単元では筆者の考えを読み取るだけでなく、共感したり疑問をもったりしたことを根拠を明確にしてまとめる活動を行いたい。また、既習教材『鳥獣戯画』を読む」と比較しながら読むことにより、筆者の考えだけでなく違う考え方もあることに気付かせたい。

筆者の論証の仕方に対する自分の考えを深めさせるために、同じグループの他の考えと比較したり、自分のグループと他のグループの考えを比較・検討したりする活動を取り入れたい。比較・検討する観点を明示し、共通点や相違点を意識しながら考えさせたり、自分（グループ）の考えをキーワードで書いたフリップを黒板に貼り視覚化したりすることにより、自分の考えを補足・修正でき、より深められるのではないかと考える。

4 指導計画（総時数 5 / 5）

次	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
—	1 ・ 2	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 読んでみよう 二つの文章～分析の観点と評価内容は？～ </div> ○二つの評論文を読み単元の進め方の見通しをもつ。 ○「君は『最後の晩餐』を知っているか」を通読し、「どのような点がかっこいい」と述べているか読み取る。	・身に付けたい力を明示し、その目標を達成するための学習の見通しをもつことができるようにする。 ・文章全体の構成をつかみ、「解剖学」「遠近法」「明暗法」という語句に注目し、筆者の分析を読み取るよう支援する。 ・筆者が『最後の晩餐』をかっこいいと思った理由を、本文の表現を挙げてまとめるよう助言する。	・本単元で身に付けたい力を理解し、学習の見通しを持ち、筆者の論の進め方に注目しながら文章を読もうとしている。 【関・意・態】 （ノート・観察） ・それぞれの観点について、どのように分析し評価しているか読み取りまとめている。 【読むこと（1）ウ】 （ノート・観察） ・筆者が『最後の晩餐』を

			<p>かつこいと思う理由について読み取っている。</p> <p>【読むこと(1)ウ】 (ノート・観察)</p>
二	3 ・ 4	<p>比較しよう 二つの文章～分析の観点と評価内容を比べよう～</p> <p>○『鳥獣戯画』を読む』を通読し、どのような観点をもとに『鳥獣戯画』を分析しているか読み取る。</p> <p>○二つの評論文は絵画をどのような観点で分析し、どのような評価をしているか比較する。</p>	<p>・小学校既習教材であるが、「何を」「どのように評価し」、「どのような言葉で表現しているか」考えながら読むよう助言する。</p> <p>・二つの評論文の叙述の仕方が比較しやすいよう、比較する観点が明確になるようなシートを準備する。</p> <p>・筆者の絵画の見方や、感じ方について、自分の考えを根拠を明らかにして述べている。</p> <p>【読むこと(1)ウ】 (ノート・観察)</p> <p>・文章中の効果的な語句の使い方や表現の工夫を探しまとめている。</p> <p>【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(1)イ(イ)】(シート)</p>
三	5 (本時)	<p>意見交換会をしよう ～筆者の絵画の見方や評価について納得するか～</p> <p>○『鳥獣戯画』を読む』の論の進め方を参考にしながら、筆者の論の進め方について、共感できる点、疑問に思う点を、根拠を挙げて意見を述べ合う。</p>	<p>・筆者の論の進め方について、他の人の考えも参考にしながら、補足・修正し、自分の考えをまとめている。</p> <p>【読むこと(1)ウ】 (ノート・観察)</p> <p>・自分が考えたことと、他の人の考えを比較し検討する観点を明示することによって、話し合いが深まり自分の考えが深まるようにする。</p> <p>・単純に、筆者の論の進め方に納得するという考えだけでなく、納得するならば「どんな点に共感する」、納得できないならば「なぜできない」のか述べるようにする。</p>

5 本時の学習

(1) ねらい

意見交換会を通して、論の進め方に対する自分の考えを根拠を明らかにしてまとめることができる。

(2) ねらいを実現するための手立てについて

補助教材をもとに考えるポイントを明確にさせるとともに、他の考えと比較・検討させることで自分の考えを補足・修正し、より深まりのある考えにさせる。

(3) 学習過程

段階	学習活動	学習形態	指導上の留意点 (☆努力を要する生徒への支援)	評価
導入 5分	1 めあてとゴールを確認する。	一斉		
	<p>「君は『最後の晩餐』を知っているか」の筆者の論証の仕方に納得す</p>			

<p>るか、意見交換会をし、自分の考えをまとめよう。</p>				
展開 5分	2 筆者の絵画の見方や捉え方についてどう思うか根拠を挙げながら考える。	個	<ul style="list-style-type: none"> ・前時までのノートを見直し、付け足しをしながら考えをまとめさせる。 ☆『『鳥獣戯画』を読む』の論の進め方と比べながら、一つの観点到に絞って考えてみるよう助言する。 	
15分	<p>比較・検討する観点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分析の観点の取り上げ方をどう評価するか。 ・「カッコいい」という評価とその理由をどう考えるか。 ・その他 			
15分	3 グループで自分の考えを紹介し合う。	グループ	<ul style="list-style-type: none"> ・グループの役割に従って、一人一人が考えを述べ、どのような考えが出たか理解できるようにする。 ・グループの考えを1つにまとめる必要はないが、出た意見の内容をキーワードでフリップに書くようにさせる。 ・フリップを黒板に貼り、すべてのグループの考えが見えるようにし、比較しやすくする。 ・自分のグループの考えと比較しどんな点が同じか、違うのか、理由や根拠に相違点はないか考えながら聞くように助言する。 ・同じ考えでも、理由や根拠が異なるものにも意図的に焦点を当て発表を促すようにする。 	
15分	4 各グループで出た考えを全体で紹介し合い、他のグループへ疑問や意見を出す。			
	2			
終末 10分	5 本時の振り返りをする。 ・他の人の考えも参考にし、補足・修正したものをグループで紹介し合う。 3	一斉	☆他の人の考えを聞き、なるほどと思ったことを付け加えるといふことを助言する。	
	<p>筆者はこの作品を「カッコいい」と評価している。だが、わたしは古い重みのある色彩などから、「カッコいい」ではなく「落ち着いていて見る人を圧倒する絵」だと思った。しかし「カッコいい」という評価は、とても身近で、読者が堅苦しくなく読める効果がありそうだ。</p>			<p>【読むこと】(1) ウ (ノート・観察) 筆者の論の進め方について、他の人の考えも参考にながら、補足・修正し、自分の考えをまとめている。</p>

ESDの観点との関わり

- 1** コミュニケーションを行う力
- 2** 批判的に考える力
- 3** 多面的・総合的に考える力